

理 科

◎平澤 峻 ○牧島 司 金箱 仁志 上原 幸成

1 目指す生徒の姿

豊かな社会を切り拓こうとする自立した学習者

2 全校研究テーマ

「キャリア×STEAM」の学習による、新たな価値を創造できる資質・能力の育成

3 理科における「新たな価値を創造できる資質・能力」の捉え

ア 問題発見・解決能力 各教科等の「見方・考え方」を自在に働かせ、本質的な問いを見いだすこと	イ 批判的思考力 多面的・多角的に考察し、よりよい解決方法を見いだすこと	ウ 自分のよさや可能性を認識し、その力をさらに伸ばしたり、社会に生かそうとしたりする力 自己の生き方を尊重できること、他者を尊重し多様な他者と協働できること、社会貢献したり持続可能な社会を創造しようとする
見通しをもち、検証できる仮説を設定すること	探究の過程の全体を振り返って推論したり、改善策を考えたりすること	理科の学習で得た知識及び技能を活用して、自然の事物・現象を総合的に見たり、考えたりすること

4 理科における全校研究テーマの受け止め

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説第 2 章第 1 節教科の目標の「見通しをもって観察、実験を行うこと」とは、観察、実験を何のために行うのか、どのような結果が予想されるのかを考えることであると示されている。「見通しをもって」ということを強調し、従前の「目的意識をもって」に比べ、より幅広く様々な場面で活用することを想定した表現となっている。

本校理科では、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成するために、事物・現象に対して、複数の実験結果やその結果に影響を与える要因を考慮しながら、関係性や規則性などを見だし、表現することが必要であると考え。そのためには、一つの事象に複数の要因が関係する実生活の課題について、根拠のある仮説をもとに実験を立案し、観察、実験を行い、その結果を分析して解釈しながら解決する学習を構想する。このような学習を積み重ねることで「あさひのプロジェクト」においても、実生活の諸課題に対して、見通しをもった仮説を設定し、その結果から情報を分析・整理することができるようになり、理科で育成された資質・能力が、問題解決に向けて発揮されると考えた。

これらのことから「学習指導要領」の具現と「新たな価値を創造できる資質・能力」を育成するために、令和 5 年度の理科研究テーマを以下のように設定した。

5 令和 5 年度 理科研究テーマ

観察・実験の結果を分析して解釈する力を高める学習の在り方